

INVESTMENT STRATEGY MONTHLY <投資戦略マンスリー> DIGEST



2026年9月

● 金融市場（6ヵ月後）見通し



株式

	直近値	6ヵ月後の見通し
日本 日経平均株価(円)	66,312	68,000-74,000
TOPIX(ポイント)	4,156	4,300-4,700

	直近値	6ヵ月後の見通し
米国 NYダウ(米ドル)	53,186	54,000-60,000
S&P500(ポイント)	7,686	7,750-8,550



債券（10年国債利回り）

(単位: %)	直近値	6ヵ月後の見通し
日本	2.940	2.6-3.4

(単位: %)	直近値	6ヵ月後の見通し
米国	4.751	4.3-5.3



リート

(単位: ポイント)	直近値	6ヵ月後の見通し
日本 東証REIT指数	1,783	1,700-2,000

(単位: ポイント)	直近値	6ヵ月後の見通し
米国 S&P米国REIT指数	2,200	2,150-2,450



為替（対円）

(単位: 円)	直近値	6ヵ月後の見通し
米ドル	159.74	156-174
ユーロ	185.59	181-199

(単位: 円)	直近値	6ヵ月後の見通し
オーストラリアドル	114.49	112-126
ブラジルレアル	30.81	29.5-33.5

注) 見通しは三菱UFJアセットマネジメント。
直近値および見通しは2026年8月31日（直近日休場の場合は前営業日の値）。

出所) S&P、Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成



日本

TOPIXに比べ増勢の鈍い日経平均株価

8月の国内株式は7月末比で上昇。好決算を発表した企業を中心に幅広い銘柄が買われTOPIXは最高値を更新しました。一方、AI関連株などは原油高の再燃や世界的な金利上昇が逆風となり、日経平均株価の上昇幅も限定的に。米エヌビディア決算は市場予想を上回るも国内ハイテク株の反応は鈍く、また、ジャクソンホール会合での金利上げ観測の高まりもあり上値重く推移しました。

AI半導体関連は再び上昇トレンドへ向かうか

機械受注のうち、半導体製造装置などの受注動向を反映する「電子計算機等」は、足元で前年比+53.0%と大幅に増加。AI半導体関連の寄与度が高い日経平均株価との連動性もみられており、今年の株高は実需に支えられた動きとの評価もできそうです。足元の株価は一時的な調整局面を迎えていますが、堅調な業績拡大が続く限り、上昇基調に回帰する可能性が高いとみます。（大畑）



米国

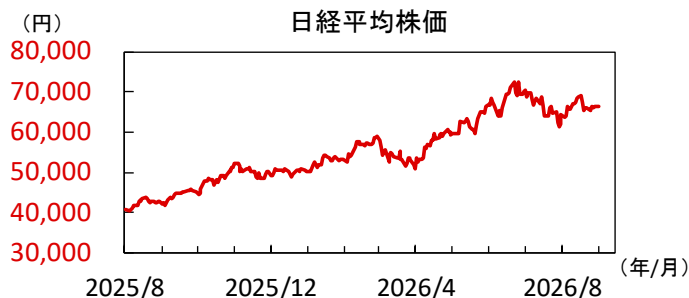
債券利回りの上げ下げに振らされた米国株市場

8月のNYダウは、前月末比+1.3%上昇。月初は、中東情勢緊張緩和への期待から債券利回りが低下、NYダウは5日まで続騰し史上最高値を更新。その後、緊張緩和期待の後退などにより利回りが上昇基調を辿る中、NYダウも弱地合いとなり月の中旬は下げ優勢な展開に。下旬に入ると、堅調な8月PMIを好感して株価は反発、またエヌビディアの決算（26日公表）への期待などからハイテク株なども上昇するなど、持ち直しの流れに。

金利上昇下でも利益の増加で割高感抑制

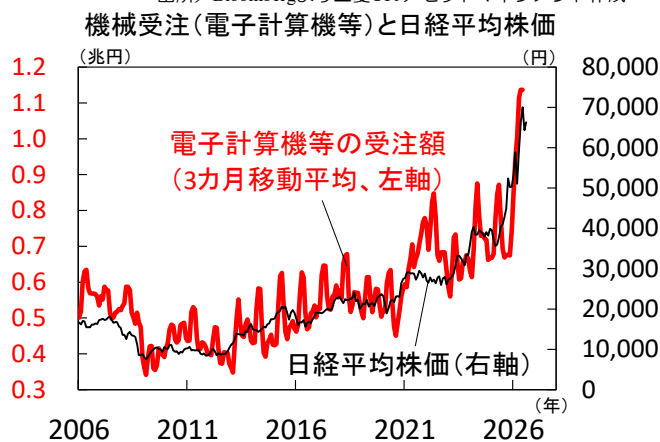
中東情勢の再混迷による原油高や米財政悪化への懸念などから、米10年債利回りは4.7%前後の高めの水準で推移。高金利はITセクターのようなグロース株への逆風となり易い環境。しかし現状は、金利との比較で株価の割高感を測るイールド・スプレッドをみると、過去同様の金利水準だったときと比べ、高い利益成長により、相対的に割高感は抑制されている模様。この先も高めの利益増が見込まれる状況下では、金利が多少上振れても、米株は全般に底堅い展開となる見通し。（渡部）

【図1】半導体需要堅調を映し電子計算機等受注が拡大



注）直近値は2026年8月31日。

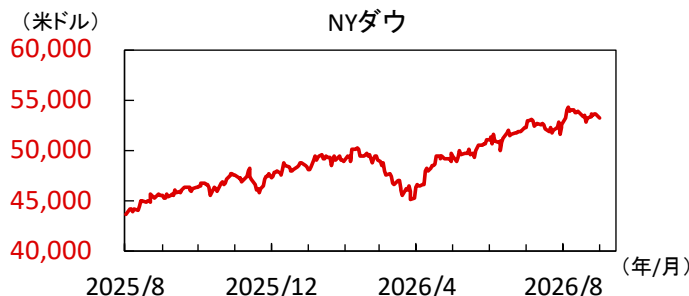
出所）Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成



注）直近値は機械受注が2026年6月、日経平均株価が同年8月。

出所）内閣府、LSEGより三菱UFJアセットマネジメント作成

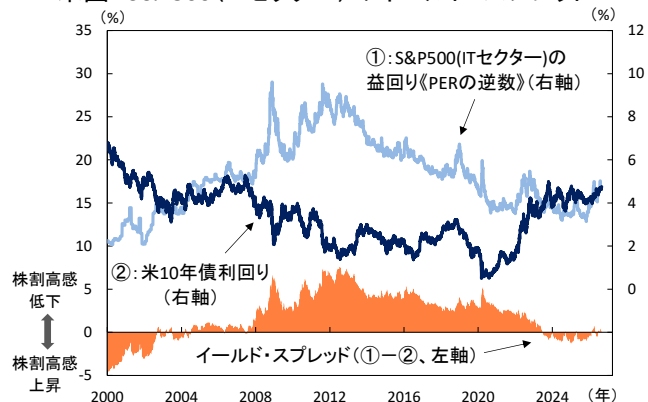
【図2】高値圏での推移を続けるNYダウ



注）直近値は2026年8月31日。

出所）Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

米国 S&P500(ITセクター)のイールド・スプレッド



注）直近値は2026年8月31日。

出所）Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

日本

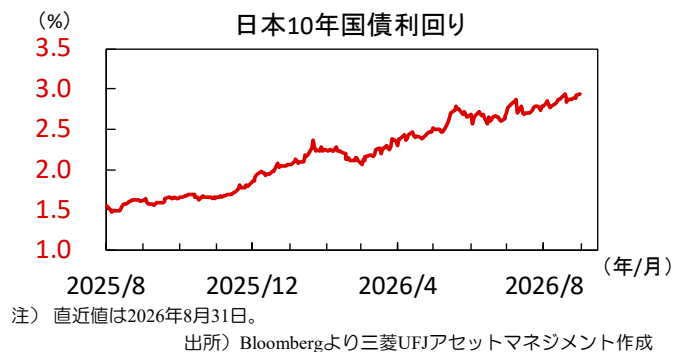
10年国債利回りは3.0%目前まで上昇

8月の日本10年国債利回りは7月末比で大幅上昇。日銀の利上げ前倒し観測に加え、原油価格高止まりによるインフレや財政拡張への懸念を背景とした世界的な金利上昇が重しとなり一時3%目前まで上昇しました。その後、ベッセント米財務長官が長期国債の買い戻し拡大方針を示し米金利低下の流れが波及するも、日本固有の金利上昇圧力は根強く、長期金利は高水準で推移しました。

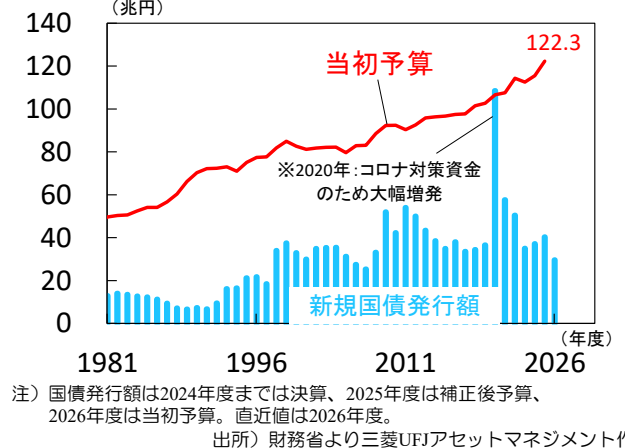
概算要求は140兆円超、国債発行抑制が鍵

財政拡張懸念が金利上昇圧力となるなか、2027年度予算では当初予算の編成手法見直しに伴う歳出拡大観測から、概算要求への関心が高まっています。各省庁の概算要求は143兆円前後となる見通しの一方、歳入面では物価上昇などを背景に税収が増加傾向にあり、高市首相が示した新規国債発行額の40兆円程度への抑制が実現できるかが、金利安定に向け重要となりそうです。（大畑）

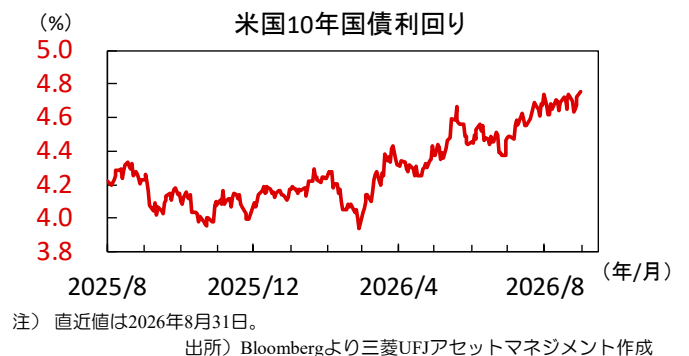
【図3】2027年度当初予算の歳出規模拡大に要注意



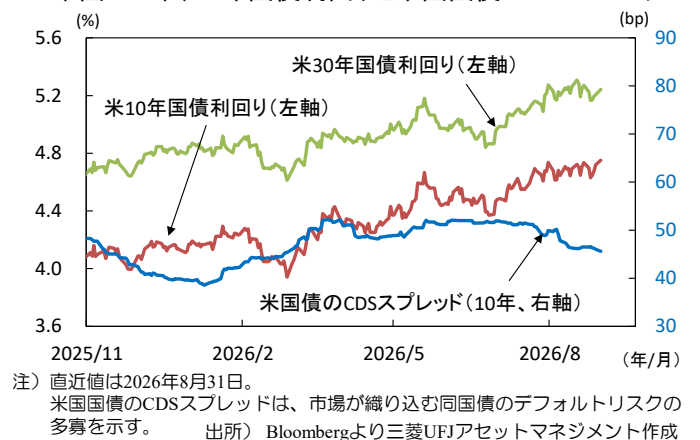
日本 一般会計歳出(当初予算)と国債発行額



【図4】高めの水準で上げ下げ繰り返す米10年債利回り



米国 10年、30年国債利回りと米国国債のCDSスプレッド



米国

金利は方向感を欠き大きめの上げ下げを繰り返す

8月末時点の米10年国債利回りは4.751%と、前月末の水準から上昇。月初は中東和平合意への期待などから利回りは低下も、その後は合意期待が後退する中、原油価格は1バレル88ドル近くまで上昇、利回りも上昇基調に。米財務省による長めの国債の買い戻し拡充策の発表による金利低下効果も翌日にははく落し、さらにジャクソンホール会合でのウォーシュ議長のタカ派スタンスが利上げ織り込みを進展させ、下旬には再度上昇しました。

財政懸念による金利上昇は今後より留意が必要

米10年債や30年債利回りが上ぶれ基調にある中、連邦政府の債務総額が初の40兆ドルを超えとなり、米国財政への懸念が話題に。一方で、米国債の信用リスクを示す米国債のCDSスプレッドは、8月月間では低下基調にあり、市場での財政危機への警戒の高まりは限定的な模様。とはいえ、米国財政はこの先も悪化が予想され、財政懸念による金利上昇圧力は続く公算。この先懸念される、CDSスプレッド上昇に応じた市場での織り込み本格化（利回りの上昇）には一定の留意が必要に。（渡部）



米ドル

介入による円押し上げ効果も長続きはせず

8月末のドル指数(複数の主要通貨に対する総合的なドルの強さを指数化したもの)は前月比▲0.5%下落。一方米ドルは対円では同+1.49%の上昇に。7月31日の日米協調の円買い介入を受け、ドル円は8月3日に一時155円台まで円急伸。その後は基調としての円安の流れに押し戻され、中旬には160円を窺う展開に。19日の米国債買戻し倍増策の発表で158円台前半までドルは一旦軟化したものの、その影響も翌日にははく落。円安基調に戻る展開に。

欧米景況感格差は当面のドル軟化を示唆

対円で見ると、ドルは8月通じて上昇傾向に。しかし複数の主要通貨に対してみたドル(ドル指数)は、全体としては軟化基調。そしてこうしたドルの全般的な軟化傾向は、目先継続する可能性が。米欧の経済サプライズ指数でみた景況感格差は、この2年間ぐらいにおいてはドル指数に先行して動く傾向に。同景況感格差は、ユーロ圏での景況感改善が予想以上に強めなことを背景に、米 < ユーロ圏、な状況が継続。この状況を反映しながら、ドル指数は当面軟化継続の公算。(渡部)



ユーロ

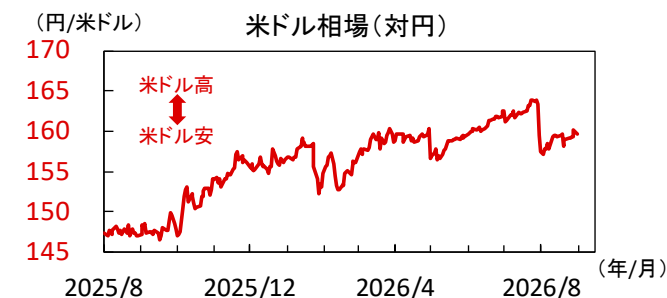
ユーロ高・ドル高材料が交錯

8月のユーロ(〜31日)は、対ドルで+0.8%と一進一退。中東情勢の緊迫化や米長期金利の上昇がドル買い材料となった一方、域内景気の持ち直しやECBの追加利上げ観測がユーロを下支えしました。月後半には米財務省による国債需給安定化策などを受けてドル高圧力がやや和らいだものの、方向感に欠ける展開が続きました。対円では、円安圧力が根強く、+2.3%と底堅く推移しました。

方向感を模索する展開が継続か

ユーロ圏景気の持ち直しやECBの追加利上げ観測がユーロを支える一方、米国の高金利環境はドルを下支えするとみられます。他方、米国の債券需給や財政運営を巡る懸念はドル相場に強弱両面の影響を及ぼし得ます。米欧金融政策や金利差に加え、米国の財政・国債需給問題、中東情勢を巡る不透明感も材料視されるなか、当面は方向感を模索する展開が続くとみられます。(吉永)

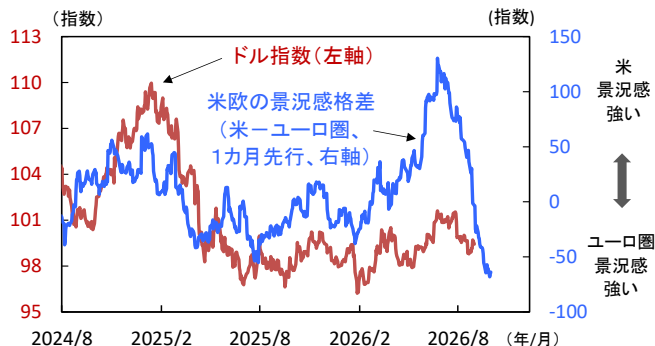
【図5】ドル円は再び160円台へ回帰する展開に



注) 直近値は2026年8月31日。

出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

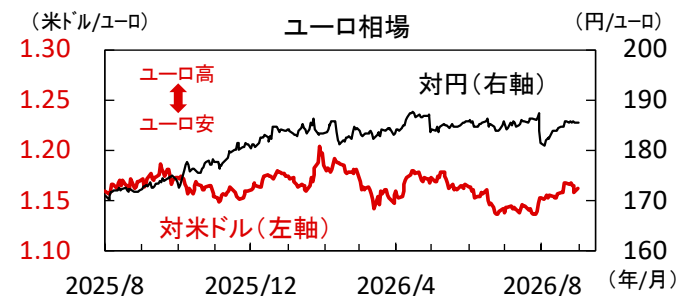
米国 米ドル指数と米欧の景況感格差



注) 景況感格差は、米、ユーロ圏の各経済サプライズ指数から算出。直近値は2026年8月31日。

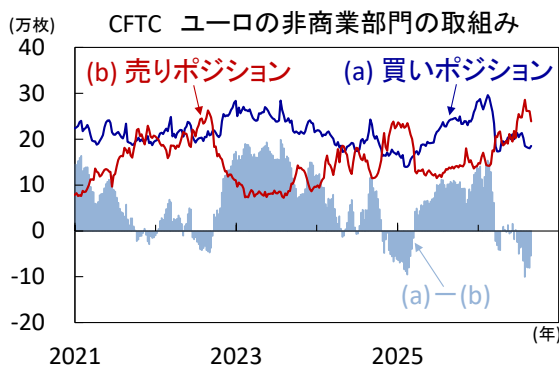
出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

【図6】米政策当局への信認が揺らぎ、ユーロ売り縮小



注) 直近値は2026年8月31日。

出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成



注) 直近値は2026年8月27日。

出所) LSEGより三菱UFJアセットマネジメント作成



オーストラリア(豪)ドル

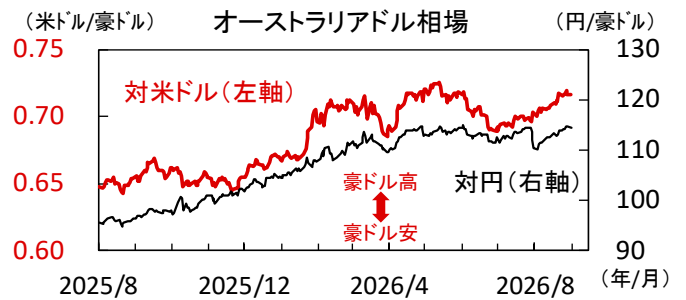
8月の豪ドルは対米ドルで上昇基調が続く

8月の豪ドルは対米ドルで強含む展開でした。豪中銀(RBA)は10-11日の金融政策会合で政策金利(4.35%)据え置きを決定、同時公表の四半期金融政策報告の経済見通しでは、前回5月報告から失業率を上方修正した一方、インフレ率はコアを中心に下方修正も、当面は3%前後で高止まるとの見方を維持しました。年内のRBA利上げ再開観測による金利先高観が豪ドルを下支えました。

根強いRBA利上げ観測が豪ドルを下支えか

経済指標を見ると、7月雇用統計で就業者数が前月差▲1.6万人、失業率は4.5%とともに予想外の悪化となりました。一方、7月消費者物価は総合が前年比+3.5%、コア(刈込平均)が同+3.6%と予想ほど鈍化せず、インフレ高止まりを想定した四半期報告を裏付ける内容となりました。早ければ11月会合での追加利上げが織り込まれるなか、豪ドルは底堅く推移する見通しです。(瀧澤)

【図7】RBAはインフレリスクを最重要視



注) 直近値は2026年8月31日。

出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

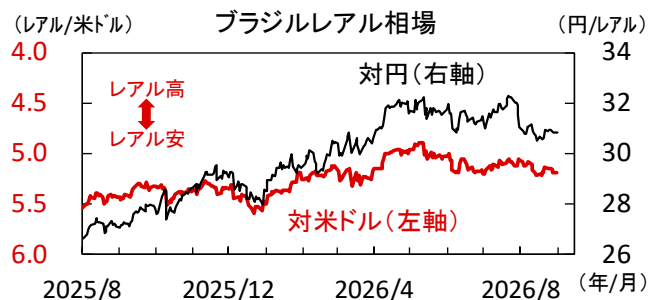
オーストラリア中銀による経済見通し(2026年8月)

(単位%)	2026年	2027年		2028年	
	12月	6月	12月	6月	12月
実質GDP成長率	+1.4	+1.5	+1.6	+1.6	+1.8
失業率	4.5	4.6	4.7	4.8	4.8
インフレ率(総合)	+3.6	+2.8	+2.6	+2.4	+2.4
インフレ率(コア)	+3.3	+3.0	+2.6	+2.4	+2.4

注) 実質GDP成長率は前年比ベース、インフレ率は消費者物価の前年比、コアは変動の大きい品目除く刈込平均。■は前回(2026年5月)比で上方修正(失業率は下方修正)、■は下方修正(失業率は上方修正)。

出所) オーストラリア中銀より三菱UFJアセットマネジメント作成

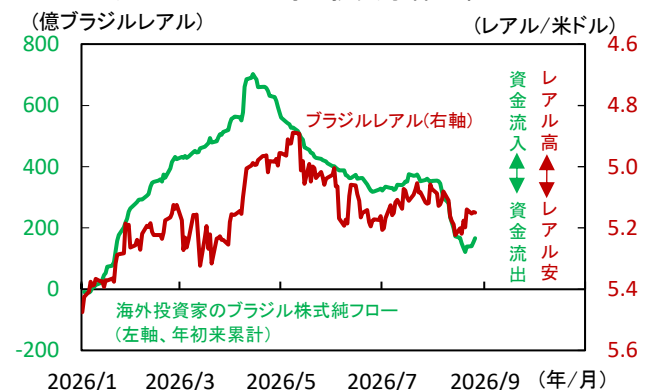
【図8】8月にレアルは対米ドルで▲2.2%下落



注) 直近値は2026年8月31日。

出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

ブラジルレアルと海外投資家株式純フロー



注) 直近値は2026年8月26日。

出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成



ブラジルレアル

8月のレアルは株式資本流出で軟調に推移

8月のレアルは対米ドルで▲2.2%と軟調でした。一部金融機関によるブラジル株式の投資判断引き下げや、大統領選挙を巡る不透明感の高まりを背景とした海外投資家の株式投資フローの悪化などがレアルを下押ししました。政治面では、8月16日より大統領選の選挙運動が解禁。主要候補の左派ルラ現大統領と右派フラビオ・ボルソナロ氏はそれぞれ副大統領候補を指名しました。フラビオ氏は自身と同じ右派自由党所属議員を指名しており、中道政党との連携が円滑に進むかは不透明です。

相対的な高金利がレアルを支援か

中銀は8月会合にて、4会合連続となる利下げを決定。「委員会は、インフレ目標への収束を確保するために金融政策を適度に制限的な状態に維持すべく、引き続き情勢を注視する」とし、先行きの明言は避けました。天候要因によるエネルギー、食品価格への上昇圧力や財政悪化懸念などから利下げ余地は大きくないとみられ、相対的な高金利がレアルを支援するでしょう。(簗輪)



日本

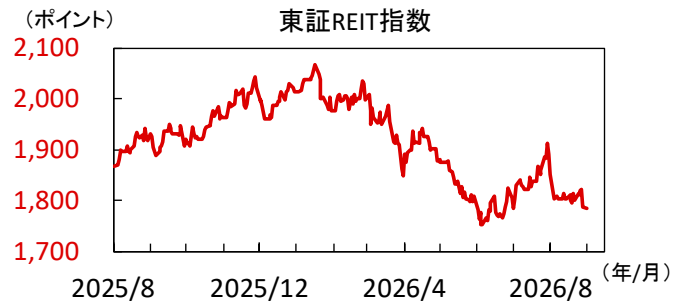
長期金利高に改めて注目集まり、下落へ

8月の東証リート指数は下落。高金利を受けヘルスケアや産業用施設等、幅広い用途が下落する一方で、ホテルは上昇しました。中国政府による訪日旅行自粛呼びかけや原油高等を受けた航空券費用の上昇に伴って、訪日外国人客数が減少する中でも、宿泊費は高水準を維持しました。底堅い旅行需要を背景に、ホテル収益が拡大していることが関連リーートの業績を下支えした様子です。

長期金利の先行き不透明感が上値を抑制

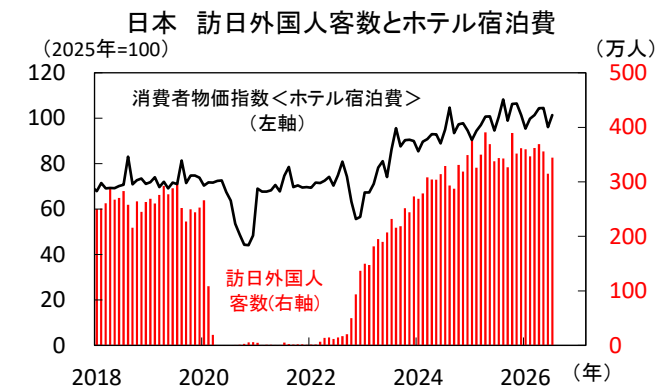
堅調な業績と出遅れ銘柄の物色を受け、今年7月末にかけ急上昇した日本リートですが、日銀の利上げ姿勢や速度調整を受け足元冴えない動きとなっています。好調な不動産市況を受けた物件売却益の計上や日銀の利上げは既に織り込まれていると考えられる中、上下両方向への材料に欠ける状況が続く見込み。日銀の利上げペースに関する不透明感払拭を待つ展開となるでしょう。（牧）

【図9】上昇後急落、冴えない動きが続く



注) 直近値は2026年8月31日。

出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成



注) 直近値は2026年7月。

出所) 総務省、日本政府観光局より三菱UFJアセットマネジメント作成



米国

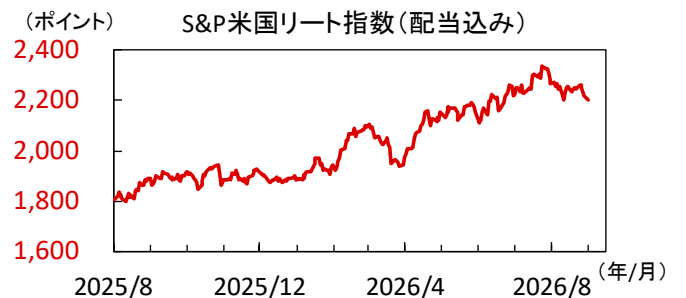
長期金利の動きを受け上下に揺れる展開

8月のS&P米国リート指数は下落。世界的な長期金利上昇と借入コスト上昇から利益率の圧迫が懸念される中、先月まで堅調だった商業施設やホテル・レジャー、森林セクターなどが反落。一方、AI関連のデータ通信量急増等から電気通信は上昇しました。そのほかヘルスケアセクターが好調。ヘルスケア支出が伸びる中で、出遅れ銘柄の物色や保険料収入の増加を受け上昇した模様です。

金利低下は容易ではなく、上値は追にくい

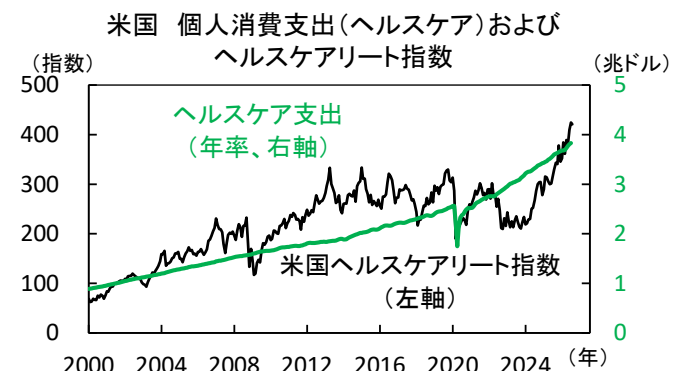
ジャクソンホール会合でのウォーシュFRB(米連邦準備制度理事会)議長の講演は、予想以上に金融引き締めの可能性を明確にし、市場では利上げ織り込みが進展。米財務省による国債買い入れ額の増額が金利の更なる上昇こそ抑えるものの、金利高止まりが続く中で上値は追いにくいです。しかし、ヘルスケアやデータセンター等底堅い需要が見込めるセクターの収益期待も底堅く、リート価格の底抜けも考えにくいと見られます。（牧）

【図10】長期金利の動きに連動し不安定な推移続く



注) 直近値は2026年8月31日。

出所) Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成



注) 直近値はヘルスケア支出は2026年7月、指数は同年8月（8月データは8月28日時点値）。リート指数はFTSE/NAREIT指数を利用。

出所) 米BEA、FTSE/NAREITより三菱UFJアセットマネジメント作成

● 2026年9月の主要経済指標と政治スケジュール

月	火	水	木	金
8/31	9/1	2	3	4
(日) 7月 小売売上高 (日) 7月 鉱工業生産(速報) (中) 8月 製造業PMI(政府) (中) 8月 非製造業PMI(政府)	(日) 8月 消費者態度指数 (米) 7月 建設支出 (米) 8月 ISM製造業景気指数 (欧) 7月 失業率 (豪) 7月 住宅建設許可件数 (中) 8月 製造業PMI(民間) (伯) 4-6月期 実質GDP	(日) 8月 マネタリーベース (米) ページブック (地区連銀経済報告) (米) 7月 製造業受注(確報) (米) 8月 ADP雇用統計 (豪) 4-6月期 実質GDP (加) 金融政策決定会合 (伯) 7月 鉱工業生産	(米) 7月 貿易収支 (米) 8月 ISMサービス業景気指数	(日) 7月 家計調査 (米) 8月 労働省雇用統計 (独) 7月 製造業受注 (英) 8月 新車登録台数
7	8	9	10	11
(日) 7月 景気先行指数 (欧) 4-6月期 実質GDP(確報) (欧) 9月 Sentix投資家信頼感指数 (独) 7月 鉱工業生産	(日) 4-6月期 実質GDP(2次速報) (日) 7月 毎月勤労統計 (日) 7月 経常収支 (日) 8月 銀行・信金貸出動向 (日) 8月 景気ウォッチャー (米) 8月 NFIB中小企業楽観指数 (独) 7月 貿易統計 (豪) 8月 NAB企業景況感指数 (豪) 9月 消費者信頼感指数 (中) 7月 貿易統計	(日) 8月 工作機械受注 (日) 8月 マネーストック (仏) 7月 鉱工業生産 (中) 8月 生産者物価 (中) 8月 消費者物価	(米) 7月 卸売在庫(確報) (米) 8月 生産者物価 (米) 8月 中古住宅販売件数 (欧) 欧州中央銀行(ECB)理事会 (欧) ラガルドECB総裁記者会見 (伊) 7月 鉱工業生産 (英) 8月 RICS住宅価格	(日) 8月 国内企業物価 (米) 8月 消費者物価 (米) 8月 月次財政収支 (米) 9月 ミシガン大学 消費者信頼感指数(速報) (英) 7月 鉱工業生産 (伯) 8月 消費者物価(IPCA)
14	15	16	17	18
(中) 8月 小売売上高 (中) 8月 都市部固定資産投資 (伯) 7月 小売売上高	(日) 7月 第3次産業活動指数 (米) 連邦公開市場委員会 (FOMC、～16日) (米) 9月 ニューヨーク連銀 製造業景気指数 (独) 9月 ZEW景況感指数 (英) 7月 失業率(ILO基準) (中) 8月 鉱工業生産	(日) 7月 機械受注 (日) 8月 貿易統計 (米) ウォーシュFRB議長記者会見 (米) 8月 小売売上高 (米) 8月 輸出入物価 (米) 9月 NAHB住宅市場指数 (欧) 7月 鉱工業生産 (英) 8月 消費者物価	(日) 日銀金融政策 決定会合(～18日) (米) 8月 住宅着工・許可件数 (米) 8月 中古住宅販売 仮契約指数 (英) 金融政策委員会(MPC) 結果公表	(日) 植田日銀総裁定例記者会見 (日) 8月 消費者物価(全国) (米) 8月 鉱工業生産 (米) 8月 景気先行指数 (英) 8月 小売売上高
21	22	23	24	25
	(欧) 9月 消費者信頼感指数 (英) 9月 製造業PMI(速報) (英) 9月 サービス業PMI(速報) (豪) 9月 製造業PMI(速報) (豪) 9月 サービス業PMI(速報)	(米) 9月 製造業PMI(速報) (米) 9月 サービス業PMI(速報) (欧) 9月 製造業PMI(速報) (欧) 9月 サービス業PMI(速報) (独) 9月 製造業PMI(速報) (独) 9月 サービス業PMI(速報)	(日) 9月 製造業PMI(速報) (日) 9月 サービス業PMI(速報) (米) 8月 新築住宅販売件数 (独) 9月 ifo景況感指数 (豪) 8月 雇用統計	(米) 8月 耐久財受注 (米) 8月 製造業受注(速報) (米) 9月 ミシガン大学 消費者信頼感指数(確報) (欧) 8月 マネーサプライ(M3) (独) 10月 GfK消費者信頼感指数
28	29	30	10/1	2
(日) 8月 企業向けサービス価格 (印) 8月 鉱工業生産	(米) 7月 S&P3ヶ月/ ケース・シーラー住宅価格指数 (米) 9月 消費者信頼感指数 (コンファレンス・ボード) (欧) 9月 ユーロ圏景況感指数 (豪) 金融政策決定会合	(日) 8月 小売売上高 (日) 8月 鉱工業生産(速報) (米) 4-6月期 実質GDP(確報) (米) 8月 個人所得・消費 (米) 8月 卸売在庫(速報) (米) 9月 ADP雇用統計 (米) 9月 シカゴ購買部協会 景気指数 (独) 9月 失業者数 (英) 4-6月期 実質GDP(確報)	(日) 日銀短観(9月調査) (米) 8月 建設支出 (米) 9月 ISM製造業景気指数 (欧) 8月 失業率 (豪) 8月 住宅建設許可件数 (中) 9月 製造業PMI(政府) (中) 9月 非製造業PMI(政府) (中) 9月 製造業PMI(民間)	(日) 8月 労働関連統計 (日) 9月 マネタリーベース (米) 8月 製造業受注(確報) (米) 9月 労働省雇用統計 (伯) 8月 鉱工業生産

注) (日) 日本、(米) 米国、(欧) ユーロ圏、(独) ドイツ、(仏) フランス、(伊) イタリア、(英) 英国、(豪) オーストラリア、(加) カナダ、
(中) 中国、(印) インド、(伯) ブラジル、を指します。日程および内容は変更される可能性があります。

出所) 各種情報、Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

注) 直近値は2026年8月31日

株式 (単位:ポイント)		直近値	7月末	騰落率%
日本	日経平均株価 (円)	66,311.93	64,362.02	3.03
	TOPIX	4,156.29	4,003.30	3.82
米国	NYダウ (米ドル)	53,185.90	52,485.03	1.34
	S&P500	7,686.14	7,489.72	2.62
	ナスダック総合指数	26,370.89	25,373.85	3.93
欧州	ストックス・ヨーロッパ600	651.10	649.19	0.29
ドイツ	DAX® 指数	26,258.11	25,629.24	2.45
英国	FTSE100指数	10,824.26	10,868.05	▲ 0.40
オーストラリア	S&P/ASX200指数	9,075.96	8,976.80	1.10
香港	ハンセン指数	25,566.99	25,884.43	▲ 1.23
中国	上海総合指数	3,986.30	3,832.26	4.02
インド	S&P BSE SENSEX指数	76,957.27	78,094.64	▲ 1.46
ブラジル	ボベスパ指数	177,418.78	177,999.00	▲ 0.33
先進国	MSCI WORLD	4,967.92	4,847.88	2.48
新興国	MSCI EM	1,719.31	1,665.89	3.21
新興アジア	MSCI EM ASIA	973.58	942.83	3.26

為替 (対円) (単位:円)		直近値	7月末	騰落率%
米ドル		159.74	157.40	1.49
ユーロ		185.59	181.43	2.29
英ポンド		216.43	212.19	2.00
カナダドル		115.31	112.30	2.69
オーストラリアドル		114.49	110.39	3.71
ニュージーランドドル		94.51	92.51	2.16
中国人民元		23.783	23.537	1.05
インドルピー		1.6782	1.6695	0.52
インドネシアルピア (100ルピア)		0.9014	0.8734	3.21
タイバーツ		4.8175	4.7152	2.17
マレーシアリンギ		39.668	39.160	1.30
ブラジルレアル		30.808	31.024	▲ 0.70
メキシコペソ		9.398	9.086	3.43
南アフリカランド		9.910	9.507	4.23
トルコリラ		3.31	3.31	▲ 0.14
ロシアルーブル		1.8573	1.9854	▲ 6.45

国債利回り (単位:%)		直近値	7月末	騰落幅%
日本	10年物	2.940	2.790	0.150
米国	10年物	4.751	4.736	0.015
ドイツ	10年物	3.324	3.206	0.118
英国	10年物	5.063	5.050	0.013
カナダ	10年物	3.738	3.664	0.074
オーストラリア	10年物	5.093	4.927	0.165
ニュージーランド	10年物	4.735	4.672	0.063
中国	10年物	1.687	1.710	▲ 0.023
インド	10年物	6.949	6.805	0.144
インドネシア	10年物	6.988	7.306	▲ 0.318
ブラジル	10年物	14.658	14.783	▲ 0.126
メキシコ	10年物	9.293	9.194	0.099
南アフリカ	10年物	8.730	8.733	▲ 0.003
トルコ	10年物	31.835	32.300	▲ 0.465

政策金利 (単位:%)		直近値	7月末	騰落幅%
日本	無担保コール翌日物金利	1.00	1.00	0.00
米国	FF目標金利 (上限値)	3.75	3.75	0.00
ユーロ圏	リファイナンスレート	2.40	2.40	0.00
英国	バンクレート	3.75	3.75	0.00
カナダ	オーバーナイト・レート	2.25	2.25	0.00
オーストラリア	キャッシュレート	4.35	4.35	0.00
ニュージーランド	キャッシュレート	2.50	2.50	0.00
中国	1年物最優遇貸付金利	3.00	3.00	0.00
インド	レポレート	5.25	5.25	0.00
インドネシア	7日物リバース・レポ金利	5.75	5.75	0.00
ブラジル	SELIC金利誘導目標	14.00	14.25	▲ 0.25
メキシコ	オーバーナイト・レート	6.50	6.50	0.00
南アフリカ	レポレート	7.00	7.00	0.00
トルコ	1週間物レポ金利	37.00	37.00	0.00

リート (単位:ポイント)		直近値	7月末	騰落率%
日本	東証リート指数	1,783.49	1,851.77	▲ 3.69
米国	S&P米国REIT指数	2,200.15	2,269.49	▲ 3.06
欧州	S&P欧州REIT指数	920.81	956.10	▲ 3.69
オーストラリア	S&P豪州REIT指数	1,196.73	1,281.89	▲ 6.64

商品 (単位:ポイント)		直近値	7月末	騰落率%
原油	WTI先物 (米ドル)	85.76	84.67	1.29
金	COMEX先物 (米ドル)	4,446.80	4,049.10	9.82
工業用金属	ブルームバーグ商品指数	180.20	176.73	1.97
穀物	ブルームバーグ商品指数	35.34	31.08	13.72

注) 株式は現地通貨 (MSCIは米ドル) ベース、リートは現地通貨ベース (米国・欧州・オーストラリアは配当込み指数)、商品は米ドルベース。

FF目標金利はレンジ上限値を表記。原油は1バレル当たり、金は1オンス当たりの価格。

直近値および前月末値のデータがない場合 (休場など)、それぞれ前営業日の値を表示。

出所) MSCI、S&P、Bloombergより三菱UFJアセットマネジメント作成

巻末の「本資料に関してご留意頂きたい事項」および「本資料中で使用している指数について」を必ずご覧ください。



三菱UFJアセットマネジメント

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。（作成基準日：2026年9月1日）
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント ストラテジック・リサーチ部リサーチグループの見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。

本資料中で使用している指数について

「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。

TOPIX（東証株価指数）、東証REIT指数に関する知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。

ドイツ「DAX®」：本指数は、情報提供を目的としており、売買等を推奨するものではありません。

FTSE International Limited(“FTSE”)©FTSE。“FTSE®”はロンドン証券取引所グループ会社の登録商標であり、FTSE International Limitedは許可を得て使用しています。FTSE指数、FTSE格付け、またはその両方におけるすべての権利は、FTSE、そのライセンサー、またはその両方に付与されます。FTSEおよびライセンサーは、FTSE指数、FTSE格付け、もしくはその両方、または内在するデータにおける誤りや省略に対して責任を負わないものとします。FTSEの書面による同意がない限り、FTSEデータの再配布は禁止します。

MSCI WORLD、MSCI EM、MSCI EM ASIAに対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

ブルームバーグ商品指数（Bloomberg Commodity IndexSM）およびブルームバーグ（Bloomberg®）は、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピー（Bloomberg Finance L.P.）およびその関係会社（以下「ブルームバーグ」と総称します。）のサービスマークであり、三菱UFJアセットマネジメントによる一定の目的での利用のためにライセンスされています。ブルームバーグ商品指数（Bloomberg Commodity IndexSM）は、ブルームバーグとUBSセキュリティーズ・エル・エル・シー（UBS Securities LLC）の間の契約に従ってブルームバーグが算出し、配信し、販売するものです。ブルームバーグ、ならびにUBSセキュリティーズ・エル・エル・シーおよびその関係会社（以下「UBS」と総称します。）のいずれも、三菱UFJアセットマネジメントの関係会社ではなく、ブルームバーグおよびUBSは、三菱UFJアセットマネジメントが運用するファンドを承認し、是認し、レビューしまたは推奨するものではありません。ブルームバーグおよびUBSのいずれも、ブルームバーグ商品指数（Bloomberg Commodity IndexSM）に関連するいかなるデータまたは情報の適時性、正確性または完全性も保証するものではありません。

S&P先進国REIT指数はS&Pダウ・ジョーンズ・インデックス（S&P DJI）の商品であり、これを利用するライセンスが三菱UFJアセットマネジメント株式会社に付与されています。S&P DJIはS&P先進国REIT指数、S&P新興国REIT指数の誤り、欠落、または中断に対して一切の責任を負いません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会